

令和元年度第2回世界農業遺産等専門家会議  
高千穂郷・椎葉山地域における更なる保全・活用に向けた助言

- 1 一つ一つの取組自体は大変レベルが高いが、個別に取り組んでいる印象を受ける。高千穂郷・椎葉山地域は、「山間地農林業複合システム」としており、様々な要素を複合的に組み合わせて展開していることが特徴である。このため、個別の取組が世界農業遺産の中でどのように位置付けられているのかを体系的に整理する必要がある。さらに、小水力発電による地域への経済効果など、伝統的な仕組みに加え、それを活用した新しい取組が創設されている状況も含めて、全体としてのストーリーを描くことが重要。
- 2 各取組の成果に係る自己評価は、今期の状況を次期保全計画に反映・改善していくことが目的であるので、各取組項目における今期のゴール、達成できた部分及び未達成の部分を明らかにした上で、次期保全計画に向けての検討を進めていただきたい。
- 3 宮崎大学 GIAHS 研究会による農業遺産資源の調査研究が進み、研究結果が蓄積されたことと、それを伝える研究者が存在することは、大きな財産である。特に、山腹用水路については、自然史的な地域の特性と、人と自然の関わりによって、伝統的な農業の仕組みができたという大変興味深い背景がある。世界農業遺産への認定を機にこのような調査研究が行われたことや、その調査結果を地域住民に伝えることで、山腹用水路に対する理解醸成をなされた点は非常に評価できるものであり、引き続き取組を進めていただきたい。今後は、研究結果を活用し、次期保全計画に反映するとともに、森林や林業も含めた将来ビジョンについて検討いただきたい。
- 4 中高生に対する教育は、世界農業遺産の価値を将来に繋げていく上で非常に重要な取組であり、今後も期待している。また、中高生は、地域への誇りを持つように意識が変化しており、将来、世界農業遺産の財産を保全していく核になる可能性が高くなっているのではないかと。今後は、教育効果をさらに広く波及させていくとともに、学校の中の活動に留まらず、地域の様々な活動の中に入り、地域を活性化させていくことも検討していただきたい。  
また、生徒が FAO と直接交流することは、学習の励みになるため、是非実施に向けて検討を進めていただきたい。
- 5 世界農業遺産は、小規模で伝統的な農業を近代的な社会で活かしていくために創設され、開発途上国を中心に認定が始まったが、先進国でも同様の考え方が重要であると認められ、先進国にも認定が広がった。このような経緯も踏まえ、日本の経験を世界に広げていくという観点で、システム内容が類似する地域と国際交流を行い、世界の開発途上地域の農林水産業の振興に資するような支援や連携を検討していただきたい。